

こよみ



2016年6月30日

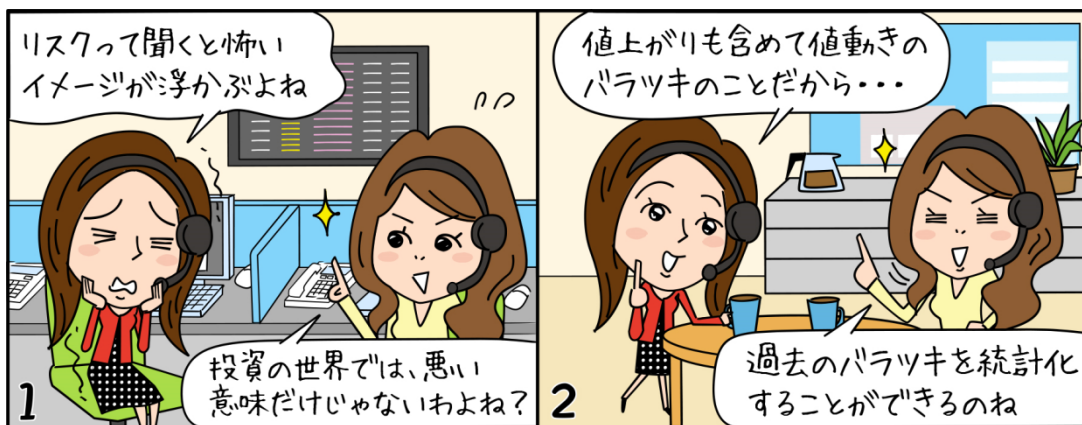
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.89

標準
偏差

リスクは怖いもの？



みなさんは、「ハイリスク・ハイリターン」、「ローリスク・ローリターン」という言葉を聞いたことがあると思います。資産運用の世界では、リスクとリターンは切り離せない関係にあります。ハイリスク・ハイリターンとは、高いリターンを追求するには、相応の高いリスクが伴うことを示しています。では、そのリスクとは何を指しているのでしょうか。

そこで今回は、資産運用におけるリスクについて押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

一般にリスクと聞いて思い浮かべるのは、“危険”や“損失”ではないでしょうか。しかし、資産運用においては、リターンの変動のことをリスクという場合があります。ファンドは値動きのある資産に投資するため、基準価額が変動します。リスクとは、この基準価額の値動きのバラツキを指し、このバラツキは標準偏差で表すことができます。よって、ファンドの運用成績の説明の中で、「リターン〇%、リスク□%」とあれば、リスクの部分は年率の標準偏差を意味しています。

標準偏差とは、統計学の用語で、平均値からのバラツキを見るための尺度として使われ、身近なものではテストの成績を測る“偏差値”をイメージしていただくとわかりやすいと思います。

ファンドの場合、平均リターン5%でリスクが10%であれば、1年後の基準価額が平均リターン±10%の幅、つまりマイナス5%からプラス15%の範囲におおよそ68%*の確率で収まるという意味です。このように、ファンドを購入する際は標準偏差を確認することで、ある程度は値動きがイメージできます。

ファンドは、投資対象によって値動き(リスク)の大きさが異なります。ある程度の値動きがないと値上がりは追求できませんが、標準偏差はマイナス側にも振れますので、値動きが大きなファンドに集中しすぎると思わぬ損失を被る可能性があります。それを回避する方法として、バランス型ファンドに投資をしたり、時間分散などが考えられます。とりわけ、最近の世界情勢は、金融政策や政治イベントなど値動きが大きくなりやすいため、リターンだけでなくリスクを意識した投資を考えてみてはいかがでしょうか。



* 統計上は、1標準偏差の範囲に全データの68%が分布します。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00